1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	409010092		
法人名	有限会社 ノット		
事業所名	グループホーム 彩光苑 (さくら・もみじ)		
所在地	〒800-0006 福岡県北九州市門司区矢筈町6番18号 093-372-9333		
自己評価作成日	平成25年03月11日	評価結果確定日	平成25年05月01日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 093-582-0294		
訪問調査日	平成 25年04月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活で、出来る事は自力で行なえるようにサポートしている。 …… 現存機能の活用 毎月1回の外食・ドライブの実施。 …… 季節感を味わう 月に2回利用者との協働での手作りおやつ作成。 …… やりがい・達成感 毎日、リハビリ・気分転換をかねて、近隣の公園へ散歩。 …… 健康の維持増進 夏祭り・敬老会・餅つき大会への家族参加。 …… 家族交流 毎月、お誕生日会の実施。 毎月、苑便りの発行・郵送。 上記のような取組を継続的に実施する事で、心身共に健康で居て頂きたいと考えております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閉門海峡を眺望できる高台にある彩光苑は、正面に市民センター、隣接地に公園があり、地域に密着した2ユニットのグループホームである。看護師で認知症の医学的知識も深い施設長は、職員と日頃から、利用者一人ひとりの介護のあり方を話し合い、利用者や家族が満足する介護サービスの提供を目指し、介護の限界に挑み、利用者の笑顔を引き出し、様子を見守る家族からは、家族アンケートの中で、安心と、信頼、感謝を込めて、高い評価を得ている。利用者の重度化が進む中で、職員の頑張り、個別対応の外出や、生活リハビリの中から、利用者の生きがいと、身体機能維持に取組み、職員が作る、愛情たっぷりの美味しい料理を、利用者、職員が、楽しい会話の中で食べながら、利用者の1日が、生き生きと、楽しいものになるように、工夫している「彩光苑」である。
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を利用案内時説明し、説明文書をホーム内の見やすい場所に明示かつ入居者や家族にわかりやすく説明している。	ホームの名前「さ・い・こ・う・え・ん」を頭文字にして作った理念を掲示し、利用者や家族、来訪者に伝える事が出来るように、職員間で理念を唱和し、意識づけを行なっている。「支え合って共に暮らす」「楽しく笑って過ごす」事を目指し、日々の介護の中で実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校行・近隣の公園の花の植え替え・地域の祭り・廃品回収等に参加し交流を深めている。	自治会長や民生委員の協力を得て、地域の行事や廃品回収、敬老会等に利用者や職員が参加したり、近くの公園への散歩時に近所の方と挨拶を交わす等、開設9年目を迎え、地域の中の一員として交流している。利用者の入居年数も長くなり、重度化により以前に比べて交流の機会は少なくなっているが、施設長、職員の努力により、出来る範囲で取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の廃品回収、町内清掃等に参加協力を行なっている。また、その場を活用して地域の情報を得ている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の会議を実施している。自治会長・民生委員・包括支援センター職員・ご家族等に参加して頂き意見交換を行い、サービスの向上に努めている。	会議は2ヶ月毎に定期的開催し、各委員から情報提供や質問、要望等が出され、ホームの実情や取り組み、課題を報告し、充実した会議となっている。会議の中で職員を募集している事を伝え協力を呼びかける等、お願い事もしている。出された意見や要望は検討し、出来るだけ反映させるよう努力している。また、多方面に声をかけ、会議の参加者の拡充に向けて取り組んでいる。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターとの関りはある。また北九州市及び北九州市社会福祉協議会と連携し人材就労サポート事業と就職支援協力体制をとっている。	ホームの中で困難事例や疑問点があれば、行政担当窓口と連絡を取り、相談や報告をして連携を図っている。また、ホームの運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実態や介護サービスの内容を理解した上で情報やアドバイスをもらい、信頼関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等を通じて禁止項目についての確認を行なうなどし、正しい知識を身につけ身体拘束とならないケアに勤めている。	内部勉強会や職員会議の中で、身体拘束が利用者にとぼす影響を職員全員が理解し、禁止項目について再確認し、身体拘束をしない介護サービスに取り組んでいる。また、玄関の鍵は出来るだけ施錠せず、利用者が自由に入出入り出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時にどのようなことが虐待なのか等を話し合いを行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に高齢者福祉課より提供して頂いた権利擁護マップ等を活用し周知徹底を図っている。	職員会議の中で、権利擁護マップを活用しての勉強会を開き、制度に関する理解を深めている。また、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が制度を必要とする時に説明を行い、活用出来るよう支援体制を整えている。主に、地域包括支援センターが窓口となっているため、何かあれば相談している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・契約時、また要望があれば、その都度十分な説明を行い不安や疑問等の解消に努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情等に関して、その都度管理者・職員で話し合いの場を設け、改善策等を見出している。必要に応じご家族とも話し合いの場を持つようにしている。玄関カウンターに苦情箱を設置。	玄関に意見箱を設置、苦情窓口を掲示し、利用者や家族の要望に応える努力をしている。家族面会時や、年2回の行事を兼ねた懇親会の中で、懇談しながら要望や提案等を聞き取り、ホーム運営や介護サービスに反映出来るよう取り組んでいる。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時・申し送り時等に意見を聞き運営者に報告している。	カンファレンスやモニタリング、勉強会を兼ねた職員会議を毎月定期的で開催している。職員が意見や要望、心配事等を言いやすい雰囲気作りを心掛け、活発な意見交換により有意義な会議になっている。出された職員の意見を検討し、ホーム運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	8月・12月に職員の実績や勤務状況を考慮し給与・賞与の決定を行なっている。また、定期の休日のほかに有給がとれる様に人員配置を行なっている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたり、どのような介護を提供したいのか、また、グループホームの果たす役割などを尋ねる。熱意が感じられる方であれば、年齢・性別は特に問わない。資格取得の希望等があるときには、勤務調整・介護技術のレクチャーを行なっている。	職員の採用は、年齢や性別の制限はなく、誠実な人柄や、介護に取り組む姿勢等を参考に採用している。採用後は、資格取得に向けた支援や、職員の特長を活かせる配置に配慮し、職員のやる気に繋がる勤務体制作りに取り組んでいる。現在、職員の確保が困難な状況であり、処遇、条件の見直し等に積極的に取り組み、職員が生き生きと働く事が出来るよう検討を始めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時に高齢者福祉課より提供して頂いた権利擁護マップ等を活用し周知徹底を図っている。	職員会議時に、権利擁護マップや理念をもとに、人権についての勉強会を行い、職員全員が理解している。日常の中で、利用者の人権を尊重する事とはどういう事なのかを話し合い、記録の書き方や利用者への言葉遣いについても気を配り、利用者の安心した暮らしを支えていく支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては社会福祉協議会主催の研修に随時参加させている。内部研修としては管理者が介護福祉課の教員経験者であり、ミーティング時また、現場において指導に勤めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	門司区介護サービス事業者連絡協議会参加。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の入院先やご自宅に伺いご本人と接する場を設けている。その後に、体験入所等の機会を持つことにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談を行い、不安・要望などを聞く場を設けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の必要としている支援を協議し、対応が困難と思われる場合は、適切であろうと思われるサービス等の提示を行なっている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	現存機能を活用し、出来る事は職員等と共同で行い、得意分野に関しては、リーダー的な役割を担っていただき職員も教えてもらうなどしている。これらのことにより、一つの大家族になれるように努力している。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時、レクリエーション等に参加して頂く等のお願いをしている。このような機会を通じて他入居者ともかかわりを持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人等特に面会制限等はしていない。	入居前に、利用者や家族から、利用者の大切な思い出やこれまでの暮らしぶりを出来るだけ詳しく聴き取り、記録に努めている。友人、知人、近所の方や遠い親戚の来訪を歓迎し、行きつけの店への買い物、理美容院、かかりつけ医の受診等に同行し、利用者の気持ちを理解しながら、利用者の馴染みの人や場所との関係が継続出来るよう努力している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者個々の能力の把握を行い個別性を重視して無理なく行なえるように、声掛け・見守りを行なっている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	諸事情により退苑された利用者様・ご家族様にはいつでも相談に来られても構わない事を口頭にて伝えている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、常に受容・傾聴・共感の姿勢を怠らず、意向の把握に努めている。	利用者の重度化が進む中で、利用者の意向を尊重しながら支えていく事に向けて職員一人ひとりが努力している。過去の履歴を読み返し、入居時からの利用者を、理解しているベテラン職員や家族と相談し、利用者の思いを大切にしながら、一人ひとりの生きがいに繋がる介護サービスの提供を、目指している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の、今現在できること、今までできていたこと、また、したいことなどを考慮し、個人ケアとして取り入れている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、常に受容・傾聴・共感の姿勢を怠らず、現状の把握に努めている。今現在できること、今までできていたこと、また、したいことなどを考慮し、個人ケアとして取り入れている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、ご家族に現状報告及び、課題等の報告を行なっている。ご本人にも日常会話等に確認を行なっている。月に1回スタッフカンファレンスを実施し徹底している。	家族の面会や行事参加時に家族と話し合い、意見や要望を聴き取るようにしている。面会が難しい家族には、電話にて健康状態や暮らしぶりを報告し、要望等あれば聞いている。かかりつけ医や関係者と話し合い、3ヶ月毎に介護計画を作成している。また、利用者の状態に変化があった場合、家族と常に連絡を取りながら、その都度、介護計画の見直しを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の活動内容が分かるように、簡潔に記録。夜間は1時間毎の巡回記録を実施。これらを活用し状況の変化をより早く把握することで、介護計画等の変更等に対応している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の、状況や要望に応じ、適切な病院等への受診が行なえる体制をとっている。ショートステイ・デイサービス等は行っていない。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会会議参加。及び2ヶ月に1回地域運営推進会議を開催し、民生委員・自治会長・家族代表・地域包括支援センター等の方々に参加して頂いている。小学校・市民センター・警察・消防とも連携を図っている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時等には掛かりつけ医以外の受診に関しても適切かつご希望の医療機関の受診を行っている。	利用者や家族と話し合い、かかりつけ医の受診支援を行っている。協力医療機関による2週間毎の往診と、看護師である施設長と職員のきめ細かな見守りで、利用者の健康管理体制は充実している。その成果として、利用者の入居年数は長く、利用者や家族からの信頼は厚いものがある。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時には協力期間の看護師に、苑内においては管理者(看護師)に相談し助言をもらっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には定期的に入院先に出向き、状況の把握に努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常からご本人の様子をかかりつけ医に情報を提供し方針を話し合っている。状況によっては、他の病院及び施設を検討するなど主治医・家族を含め説明している。	利用者の重度化に伴い、ホームで出来る事、出来ない事を説明し、家族、主治医、関係者で話し合いを重ね、出来るだけ本人、家族の希望に沿えるよう努力している。看取りに向けては、利用者一人ひとりの条件に沿いながら個別に対応し、関係者で方針を確認、共有しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し所定(詰め所)に備えている。ミーティング時にも勉強会のテーマとして行っている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。 年2回夜間想定・昼間想定での避難訓練を実施している。	年2回、消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施している。実際に利用者と一緒に夜間想定での訓練を行い、夜間、職員が2人で18人の利用者の避難にあたる大変さを実感し、繰り返しの訓練の必要性を感じている。スプリンクラー、通報装置を設置し、非常食、飲料水等の備蓄も行っている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの、誇りやプライバシーを損ねる事の無い様に、支持的・高圧的・否定的な言葉使いをしないように指導を行なっている。	職員は、利用者を人生の大先輩として敬い、優しさと思いやりの中で、利用者が笑顔で楽しく暮らせる環境を目指している。スピーチロックを含め、言葉かけに気をつけながら、職員のペースで介護するのではなく、利用者に合わせて、利用者の目線での介護サービスを実践している。また、個人記録の保管や、職員の守秘義務遵守の徹底も図られている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動内容の説明、また希望の内容等をお聞きしている。水分補給等もコーヒー・紅茶・温・冷等も希望を聞き提供している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎食後等にも各入居者のペースにあわせゆっくりと時間をとり会話等を行なっている。入浴等に関しても、事前にお知らせし、本人の希望を優先している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の美容院へ出向き、ご希望によりカット、パーマ・毛染めをされている。また、月に1回美容師が訪問しての苑内でも行なえるようにしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	白米以外にも麺類・パン類等利用者の好みを取り入れながら献立を考えている。利用者によっては、食材を切ったり、盛り付け・配膳・下膳等も職員と共同して行なっている。	利用者の重度化が進む中で、利用者の残存能力を活かし、食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。同じテーブルで、会話しながら食べる食事は、利用者にとって一番の楽しみである。利用者の食べたいものを聞き、献立を決め、施設長が買い出しに出向き、職員が手作りの食事を提供し、利用者に家庭的な食事を食べてもらうために一丸となって努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量等、24時間チェックを行っている。水分補給は本人の嗜好を配慮しながら1日1000ml～1200mlを目標に行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前・起床後・毎食後に必ず口腔ケアを実施している。総義歯等は就寝前に薬液につけている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録、把握することで定期的に声掛けや誘導を行なうことで、失敗やおムツの使用を減らしている。	トイレでの排泄を基本としている。職員は、利用者の習慣や排泄パターンを把握し、早めの声かけや誘導で、利用者一人ひとりに合わせた排泄の支援を行い、出来るだけ利用者の状況をキープするための努力をしている。また、夜間には極力寝てもらおう工夫をしたり、布パンツにパットを使用する等、紙おむつの、使用軽減にも配慮した取り組みがある。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食材を用いて調理を行なっている。また、運動・水分補給の必要性についてもミーティング等を通じて周知徹底を図っている。排便チェックは毎日実施している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や、ご家族の希望等を考慮した入浴体制をとっている。	平均して週3回の入浴支援となっているが、利用者の希望を優先し、毎日入る事も可能である。入浴拒否の利用者には、無理強いせず、職員が交代で声かけし、その気になるのを待って、楽しい入浴が出来るよう工夫をしている。入浴を拒否する利用者も浴槽にゆっくり浸かると、「気持ちいい」と入浴を楽しんでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じてベッドもしくは畳の植えに布団を敷き就寝されている。布団は使い慣れた者を持参していただき使用している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、入居者の内服薬の目的・副作用・用法・用量などを個人ファイル等にて把握、管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、食事の盛り付け・掃除・裁縫等を職員と協働して頂くことで、達成感等を感じていただけるように支援している。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の車や公共の交通機関を活用している。お正月・お盆等にはご家族との外出や外泊を依頼し調整を行なっている。	すぐ横に公園があり、天気の良い日は散歩に出かけ、近隣住民と親しく会話している。花見や、月に1度の外食レク等、出掛ける機会を多く持ち、利用者の生きがいに繋がる支援をしている。利用者の重度化に伴い、全員揃っての外出は難しくなっているが、状況に応じて、回数を減らしながらも、外出の支援を継続していきたいと考えている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に心じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望があれば少額であれば所持することを容認している。また、外出や外食に行った際にしようしてもらっている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には、電話の取次ぎ、手紙のやり取りはフリーである。レクリエーション等で年賀はがきを書いて頂くなどの取組も行なっている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳スペースには座椅子や座部とん、玄関にはベンチを置くスペースを確保して自由にくつろげる環境を確保している。風呂場。台所にはのれんを配し、げんかん・トイレには四季折々の草花を配している。壁には季節ごとにディスプレイを変更している。	門司港を見下ろす高台に位置し、ウッドデッキに一步出ると、関門海峡からの春風を頼り受け、季節を五感で感じ取る事が出来る。畳の空間に設けられた掘り炬燵では、足を投げ出し寛ぐ事も出来、天井の明り取りから光が注ぐ明るいきりびんぐの中で、利用者はのんびりと居心地良く過ごしている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキに通ずる和室を設け、冬には掘りコタツとして使用できる。横になる事も出来、会話やお茶を楽しむこともできる場所を設けている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていた、寝具・家具等を使用しやすい様に本人・ご家族と相談し配置している。	居室には、出来るだけ自宅で使っていた物の持参をお願いし、家族と協力しながら、利用者が落ち着いて居心地良く過ごせるよう配慮している。また、畳や障子の仕様により、家庭的な温かさがあり、それぞれの居室には似顔絵や表札が掲示され、その人らしい居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下には手摺りを配備している。玄関等も緩やかなスロープにしている。居室の入り口には似顔絵や自筆の表札を提示し分かりやすいようにしている。		